



平成27年度「滋賀県産業安全の日無災害運動」取組事例

滋賀労働局 健康安全課

平成27年度も多くの事業場に「無災害運動」にご参加いただき、ありがとうございました。

各事業場の報告のうち、具体的に記入いただいたものや特徴的なものを中心に実際の取組事例について、以下のとおり紹介します。その業種では当たり前でも他の業種の参考になりそうな事例や、他の業種では当たり前でもその業種では珍しい事例も取り上げました。以下に挙げた以外にも、基本的な取組を丁寧に行っているもの、積極的に行っているものなど様々な取組が多くありました。

各事業場で、今後の安全衛生活動のご参考にしてください。

<1 「滋賀県産業安全の日」の横断幕やポスター等の掲示>

各事業場とも、安全を講じるべきまさに作業場所のほか、前年に挙げた例のほか、掲示板・福祉厚生施設・通用門・打合室など、多くの人が見る場所や注視する場所など様々な場所にポスターを掲示していました。その他、以下のような特徴的な事例が見られました。

- ・正門でのビラ配布を行った。(製造業)
- ・朝のあいさつ運動時スローガン「変化に潜む安全リスク ルールを守って 無事故の職場」付きのティッシュを配った。(製造業)

<2 安全基準や作業手順の総点検及び遵守状況の確認>

- ・保護具等(防じんマスク、警備機材、馬具など)の総点検、不要物の撤去、管理基準(マスクの洗浄)の見直しを行った。(製造業、建設業、警備業、その他)
- ・1人1件以上の災害リスク発掘と是正に取り組んだ。(製造業)
- ・直近で組織変更があり、安全衛生委員会で「安全衛生事故点検表」を作成し、各職場でチェックを行った。(製造業)
- ・特に予定外作業について、作業手順の確認を行った。(建設業)
- ・各班員による安全点検とその報告を義務化した。(運輸業)
- ・売場・加工場の安全チェックを実施し、その結果を受け、床の補修工事を行った。(商業)
- ・転倒災害防止等のため、シューズチェックを行った。(商業)
- ・フライヤーの使用など危険箇所を中心に、作業工程に不備は無いか確認を行った。(商業)

<3 リスクアセスメントの実施及び結果に基づく改善>

一定期間経過している事項への再リスク評価などのほか、以下のような特徴的な取組が見られました。

- ・課ごとに行ったリスクアセスメントに基づく改善が進んでいるか、社内で共有した。(製造業)
- ・ヒヤリハットのうち重大なものは、本社安全衛生委員会で各事業場間での横展開を図った。(製造業)
- ・リスクアセスメントについて研究所と工場という異なる様態の事業場合同で行った。(製造業等)
- ・リスクアセスメントの一連の過程で、不具合作業の明確化と作業の標準化を図った。(製造業)
- ・化学物質リスクアセスメントの義務化にあわせ、実施基準を改訂し、関係職場に対して説明会を開催した。(製造業)
- ・部署ごとにテーマを設定し、リスクアセスメントを実施した。(製造業)
- ・各現場がリスクアセスメントに基づき措置した内容を、安全担当部署が有効性評価を行った。(製

造業)

- ・リスクアセスメントについて講習を行った。(建設業)
- ・協力会社の参加も得て、リスクアセスメント等による改善ディスカッションを行った。(その他)
- ・ヒヤリハット事例を、各個人の危険予知トレーニングと、組織としてのリスクアセスメントの両方に活用した。(製造業)

<4 事業場トップによる安全意識を高める意思表示>

トップによる表明・宣言を行う機会について、全体朝礼、安全衛生委員会など様々な事例がありました。また、全社員が集まらない場での表明の際は、各職場の管理者が伝達したり、議事録にして全社員に周知している事例が見られました。その他、建設業以外では一般的ではない事例として以下のものがありました。

- ・朝礼広場に「所長安全宣言」を掲示した。(建設業)

<5 事業場トップによる安全衛生パトロール>

パトロールについて、トップが毎日行うなど精力的な事例、作業手順書と実際の作業との相違確認など丁寧に現場確認したものなどのほか、以下のような事例が見られました。

- ・本社と事業所での合同パトロールを行った。(製造業)
- ・トップと安全委員で混成チームを組んでパトロールを行った。(製造業)
- ・代表取締役自ら、警備現場の巡察を行い、安全意識の向上を図った。(警備業)
- ・事業主が事業場の全ての箇所を再三にわたりチェックを繰り返した。(畜産業)

<6 安全衛生の取組についての労働者の家族に対する周知>

- ・家族周知用の用紙を作成し、従業員に配布した。(建設業)
- ・自社発行の内部向け情報誌にて家族に対する周知を行った。(その他)
- ・給与明細送付時に家族宛メッセージを同封した。(警備業)

<7 安全教育(衛生教育)の実施>

労働者や安全担当が集まる各種機会において、安全唱和、各種注意喚起、トップによる安全訓示を行ったものが見られました。また、産業医による講話、階層別に行ったもの、指差し呼称し・手順書・事業場の主要課題に即した再教育など様々な事例が見られました。その他、冬期に向けて冬期特有の交通安全教育のほか、以下のような事例が見られました。なお、安全衛生にとどまらず、セクハラ・パワハラ、インフルエンザ対策、ノロウイルスなどについて教育を行った事例もありました。

- ・「過去災害における安全ポイント」教育を実施した。(製造業)
- ・体感型安全衛生教育、安全道場体感教育を行った。(製造業)
- ・全従業員対象のメンタルヘルス講習会を行った。(製造業)
- ・危険予知トレーニングに当たり、KYTシート等を活用した。(製造業)
- ・教育に当たり、ビデオやDVDを活用した。(製造業)
- ・安全ルールの理解度確認を行った。(製造業)
- ・災害事例を自職場に置き換えて、より具体的な注意点を周知した。(製造業)
- ・過去の事故例から注意点を洗い出し展開した。(運輸業)
- ・交通安全教育に当たり、警察署からDVDを借りた。(その他)
- ・リフト作業の安全に詳しい外部講師を招き、リフト作業の安全教育を行った。
- ・店長自ら、朝礼等の機会に、什器の使い方や水漏れした床の危険性など具体的な安全講話を

行った。(商業)

- ・作業時間中の喫煙や携帯電話使用について厳しく指導した。(畜産業)
- ・馬の取扱いの講習を行った。(畜産業)
- ・他の事業場での実例(腹帯の締め忘れ等)を自事業場内に周知・注意喚起した。(畜産業)
- ・なぜ安全対策が必要か理解してもらうため、理由から説明した。(畜産業)

<8 その他の取組>

- ・各事業場・関係企業を集め、全社安全衛生大会を開催した。(製造業)
- ・朝の通勤時に各部署責任者が交替で事業場入口に立ち、挨拶・声かけを行った。(製造業)
- ・会員となっている団体にパトロールを実施してもらった。(製造業)
- ・部門別の相互パトロールを行った。(製造業)
- ・安全スローガン「ゼロ災害 危険予知の 積み重ね」を定めた。(建設業)
- ・職員と協力業者職長と一緒に、パトロールを行って改善策を話し合った。(建設業)
- ・過去の自社災害の一覧表と検索資料を作成した。(建設業)
- ・全体朝礼で、災害事例の発表を行った。(建設業)
- ・朝礼で、各現場での安全ポイント等を発表し、共有した。(建設業)
- ・安全スローガン「「まあいいか」で済まさない 気持ちがつなぐ 安全職場」を定めた。(警備業)
- ・ヘルメットとそのあごひも、安全靴、保護プロテクターの装着、運動中の馬との距離確保、他の馬の動向への注視を確認・指導・徹底した。(畜産業)
- ・各従業員同士で仲間への安全指摘を行った。(畜産業)
- ・過去の労災事故を回想し、反省・再発防止の話し合いを行った。(畜産業)
- ・過去の事例や各人が今までに感じたことを元に、危険を減らすためにどうすれば良いか話し合った。(畜産業)
- ・伝言板に安全の書き込みを行った。(畜産業)
- ・それぞれ馬の癖や特性などを情報共有した。(畜産業)
- ・連携不足での事故を防ぐため、声かけや手順確認等のコミュニケーションをとることを確認した。(畜産業)